

ピックアップ

《お知らせ》「第5回ふるさとウォッチング in 安曇野」を開催します！
ふるってご参加ください。

3月8日(日)に「第5回ふるさとウォッチング in 安曇野」を開催します。今回は堀金地区の中堀、烏川、田尻地籍。拾ヶ堰の流れが西から北へと大きく向きを変える通称「大曲」界隈を、半日かけて歩きます。文人臼井吉見や、臥雲辰致を始めとした地域の実業家・有力者の足跡、養蚕業が栄えた頃の面影が残る古道、治水を巡る先人たちの苦闘の歴史などを学びつつ、天気の良いれば



眼前にそびえるアルプスの大パノラマを堪能します。ウォッチングの後には恒例のぬかどごはんで昼

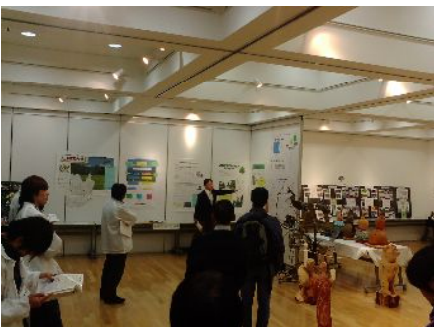
食をとって締めとなります。ご期待下さい。



臼井吉見文学館

《報告その1》「第3回ふるさとづくりフォーラム in 安曇野」を開催しました。

去る11月8日(土)、3回目の「ふるさとづくりフォーラム」を開催しました。見学に訪れていただき



た100名ほどの方々には心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回は、『市民活動と地域づくり』というテーマで地域づくりに取り組む市民団体、個人などが、パネル展示と約15分ずつの活動発表を行いました。同時に、松本大学が運営する“地域づくり活動隊”、「考房『ゆめ』」にも参加していただき、松本一本ネギ復活事業や新村駅の「ふるさと鉄道祭り」についてなど、とても興味深い発

表をしていただきました。また同「考房」の担当教諭・福島明美先生には、『みんなで進める地域づくり』と題して講演も行っていただきました。

また上記以外にも、マイ箸と木のおもちづくりや、ぬかど炊きの体験コーナーなども設け、「頭



でっかち型」イベントにならないような趣向も凝らしたため、体験いただいた方々には楽しんでもらえたかと思います。

しかしながら全体として来訪数が伸びず、やや盛り上がり欠ける感もありました。地域づくり活動



の発表や考察の場としてフォーラムという方法がふさわしいのかどうか、あらためて検討しなければならないと考えております。

【フォーラム】(forum)の語源
1 古代ローマにあった集会用の広場。
(出典:「大辞林」)



ごはんがまた美味しいということで、持って行ったお米とお餅は無事完売しました。

細井さん、これからも良質な安曇野米を作り続けて下さい。「応援団」も応援しています。

《報告その2》無農薬米の試食会を手伝いました。

～林檎の湯屋「おぶー」にて～

松本市石芝にあるスーパー銭湯『おぶー』内の食堂で使われているお米は、当「応援団」会員の細井正博さん(細井ファーム代表)が作っている有機栽培米です。去る12月10日は『おぶー』6周年の日。その記念イベントの一つとして、細井さんが、自信作・JAS認

定完全無農薬米の試食・即売会を実施。当「応援団」もその「ぬかど」炊きのお手伝いをしました。

この日は入浴料がなんと10円ということで、開店1時間以上前から行列が出来ていました。列に並ぶ人々はまずは「ぬかど」に興味深々。で、炊けた

はじめまして ③

《「信州ふるさと作り応援団」のスタッフを紹介します。》今回は

もちづき あきら
望月 彰

バイクとジョギングを趣味としつつ、勤務先では“監督と4番を兼務する”かの如き望月彰は、ダンディーであり、また日々多忙である。だから腹にアブラの乗る余地はなく、働くオヤジとして脂が乗りきっている。地域づくり活動への情熱は人一倍だが、働くオヤジ真っ盛りの身としては自制せざるを得ず、気の毒だ。

しかし忙しくはあっても氏は人の話をよく聞く。喋りは要点を押さえて簡潔

であり、知将の風格さえ漂う。会議でも酒の席でも“俯瞰するもう一人の自分”がいるかの如しで、彼が口を開くと道に迷っていた議論はたちまち軌道にもどる。また町内会役員だった際の氏の経験談によれば、「会議後の懇親会などでは男だけでなく奥さん方も交えての歓談を重ねたことで、結束ある地域活動ができた。」という。つまり氏は、日々のあまりの忙しさに何事においても効率的に事を進める癖が付き、どさく

さまざまに奥さま連のハートもわしづ



かみにしたと
いうことか...。
知将というより
ただのチョイ
悪オヤジなの
かも知れないが...、まあ今日のところはいいだろう。

歌って踊って指揮もする 50 代望月彰は、当「応援団」執行部盤石の証なのだ。(木船)

コラム ③

《当NPOの活動、安曇野などについて縦横に語ります。》こちらも望月彰です。

寒さはまだきびしいですが、皆さんお元気でしょうか。いつもウォッチングに参加していただき、ありがとうございます。矢原・等々力・小岩嶽・飯田、各地区4回のウォッチングをしてきて感じることは、懐が深いなあ...ということです。当初の計画からNPOの仲間が集めてくれた資料、何度かの下見をするうちに、思いがけないその地区の歴史や風土が産んだ人物などが次々と出てきて、見所のあるものとなっていきます。安曇野の持

っている自然だけではない、歴史や文化の豊かさを感じることが出来ます。次回の堀金の「臼井吉見文学館」を中心としたウォッチングもすでにその予感有り。楽しみにしてください。

景観は自然だけでなくそこに住む人間の営みによって変わっていきます。誰もが賞賛するスイスの景観は森林を切り開いて可能な限り牧草地とした結果ですし、ニュージーランドも同様だと聞きました。私も住宅

の設計を仕事としてしていますので、宅地の電線やガス管の地中化をしたり緑地の確保など、より良い環境づくりを心がけているつもりです。安曇野にあこがれてくる人の住宅を造り、皆さんが楽しんで生活を送っていることを実感できるのが一番の喜びです。

今年で還暦を迎えますがあまり実感はありません。チョイ悪親父？結構。自立した立派な不良老年になるべく、日々努力の毎日です。(望月)

ふるさとを読む ③

《書評》田舎暮らし、安曇野に関わる図書へ当NPOスタッフがご案内します。

臼井吉見著「自分をつくる」(臼井吉見文学館)

～臼井の教育・文学観のエッセンス～

本書は、臼井吉見の講演の一部を臼井吉見文学館の内川館長らが再刊したものである(1月24日付「市民タイムス」参照)。

「自分をつくる」は信大付属中学校開校20周年記念講演(1967年3月12日)。吉見は松本中学(現深志高校)時代を振り返り、「暮らし向きの実生活」とは別に自分の「精神の世界」を持って説く。「精神の世界」を広げ深めるには、「本を読むことと友達と接触すること」が大事であり、

「たえずからだを動かすこと、たえず頭を働かせること、たえず心に感ずること、この三つを本気に、精いっぱい」やるよう訴えている(中学時代に長塚節の「土」に深刻な影響を受けたとのくだりに、臼井文学を理解する鍵がありそうだ)。

「人生観はおしつけられない」は南安曇教育会での講演(1974年11月22日)。人生観とは、親や先輩・友人の声に耳を傾けつつ「一切の人類の歴史と文化をことごとく参考に

して...死ぬまでかかって、自分でつかみとる」ものであり、大人が「簡明な合い言葉なんかで」押しつけるべきではないと吉見は主張する。「教育の中軸は、自己教育」であり、「その自己教育の中核は、自分と異質な人間との対話である」との一文に吉見の教育観が凝縮されている。既成の権威をものともしない反骨精神やおおらかなヒューマニズムに学ぶべきものは多い(鈴木)。

お知らせコーナー

①今後のイベント情報

2月25日(水):「松本地域景観育成フォーラム」開催。県松本地方事務所にて。松本地方で景観育成に取り組む諸団体が集まり、活動報告と意見交換を行います。一般参加歓迎。無料。当「応援団」も活動発表とパネル展示を行います。

2月28日(土):「環境パネル展」開催。豊科公民館にて。当「応援団」はぬかくど実演とパネル展示参加。

3月8日(日):「第5回ふるさとウォッチング in 安曇野」開催。要申込。詳細は別紙案内。

②「ふるさとパートナー」会員登録更新のお願い。

皆さまの現在の「ふるさとパートナー」登録の有効期限が3月で終了いたします。「新しいふるさと」づく

りに取り組む当「応援団」の活動に、皆さまのご支援は不可欠です。4月に入りましたら更新いただきますよ

うよろしくお願いたします(年会費1,000円です)。詳細は後日改めてご案内申し上げます。